

衛星放送ワーキンググループ（第13回） 議事要旨

1. 日時

令和7年7月30日（水）10時30分～12時08分

2. 場所

WEB会議

3. 出席者

（1）構成員

伊東主査、音主査代理、飯塚構成員、内山構成員、大谷構成員、奥構成員、落合構成員、長田構成員、林構成員

（2）オブザーバー

一般社団法人衛星放送協会、スカパーJ S A T株式会社、
一般社団法人電子情報技術産業協会、日本放送協会、一般社団法人日本民間放送連盟、
株式会社放送衛星システム、一般社団法人放送サービス高度化推進協会

（3）総務省

豊嶋情報流通行政局長、近藤大臣官房審議官、井田情報流通行政局総務課長、
佐伯同局放送政策課長、根本同局放送技術課長、坂入同局放送業務課長、
飯村同局放送施設整備促進課長、吉田同局情報通信作品振興課長、
佐々木同局放送技術課技術企画官、佐々木同局放送業務課企画官、
横澤田同局放送業務課配信サービス事業室長、本橋同局放送施設整備促進課企画官、
岡山同局情報通信作品振興課放送コンテンツ海外流通推進室長

4. 議事要旨

（1）開催要領の確認等

・事務局から、資料13-1及び資料13-2に基づき、説明が行われた。

（2）衛星放送の現状と4K放送

・事務局から、資料13-3に基づき、説明が行われた。

（3）構成員からのプレゼンテーション

・奥構成員から、資料13-4に基づき、説明が行われた。

・音構成員から、資料13-5に基づき、説明が行われた。

（4）意見交換

・各構成員等から以下のとおり意見があった。

【林構成員】

奥先生と音先生にお聞きしたいのですが、先ほど事務局からBSあるいはBS4Kの現状が示され、また、先ほど奥構成員のプレゼンの中でもBSを含むテレビの視聴動向の御説明がありましたが、それらを総合しますと、BSあるいはBS4Kをめぐる状況、あるいは将来の展望というのは、率直に言ってなかなか厳しいという実感を受けました。媒体がBSであろうとネット配信であろうと、それは手段の問題で、大事なものは、BS4KであればBS4Kのコンテンツの流通をいかに促進していくかだと思います。そう考えますと、BSないしBS4Kのコンテンツを積極的にネット配信していくというのが、コンテンツ流通促進の鍵ではないかと思います。

例えば民放のBS4KコンテンツをTVerで流すということもあっていいのではないかと思います。TVerであればTVerで、4Kコンテンツを本格的に配信する場合の、コンテンツの費用負担をどうするかなど、具体的課題は何かということを両先生にお聞きしたいと思います。また、課題があるとした場合に、それは容易に克服可能なものなのか、一朝一夕でいかないものなのか、両先生のお見立てをお聞かせいただけると幸いです。

【奥構成員】

確かにその通りです。今日の音先生の御説明も含めて、厳しい面があると思います。

特に民放においては、事業ドメインが広告費であるなかで、それが1,200億円見当で飽和しており、今後の伸びもあまり期待できません。地デジ化に伴ってのテレビの買い替えから、恐らく各家庭で3回ぐらい買い替えがあったと思いますが、その買い替えで若干4K受信世帯が増える一方で、それ以上にコネクテッドTVの増化によりネット接続率のほうの上振れの傾向があるということを考慮すると、今後についてはさらに厳しいという見方もあると思います。

林先生のおっしゃるとおり、例えば民放の4Kコンテンツを配信に出すということは、現状、2Kと4Kはほぼサイマルですので、2Kコンテンツをサイマル、ネットに出すということとほぼイコールになってしまいます。広告費はほとんど2Kのほうに単独で張りついているわけです。コンテンツをあえて4Kでつくるとすると費用面でも問題がありますし、これをTVerなど様々な配信プラットフォームに出すというときのビジネスモデルの考え方にも課題があります。

つまり、放送は、1回の放送と再放送、あるいは見逃し配信で費用をリクープするというモデルですが、配信をメインに考える場合は、コンテンツを長いレンジで視聴者に見ていただき、費用を中長期で回収するモデルになります。

今、一般的なコンテンツとしての配信の在り様が様々な会議体で議論されています。その配信のビジネス設計をグランドデザインしていくことや、こうすればいいというノーム値を見つけていくことが、現在の民放さんがやろうとしていることで、その中で、Netflixにあるように、場合によっては4Kという選択肢もあるというのが、現状の理解だと思います。

そういう意味では、まだやはり放送ファーストですので、放送に4Kのウィンドウがないので

あれば配信に4Kのコンテンツを出しにくい。今は4Kのウィンドウはありますが、いわゆるニュース枠のスタジオでの生中継やスポーツコンテンツで4Kカメラが撮っているものがたまたま出ているだけで、配信に比較的マッチングしやすいアーカイブ物などを4Kで撮って、編集して全てピュア4Kで制作するということまでは踏み込みにくいのではないかというのが、私の率直な感想です。

さらには、配信側のトラフィックという点でも、4Kになるとトラフィック量が増大するので、そこまでして視聴者が4Kで見たいかという点については議論の余地があると感じました。

【音主査代理】

基本的には奥さんと同じような意見です。特に民放BSに関しては、2K・4Kが今はほとんどサイマル放送という形になっていますが、例えば、BSフジの「プライムニュース」という生放送のニュース番組は、翌朝に4Kで再放送をしています。言うなれば、4Kで撮っているピュア4Kのものです。これをどういう形でうまく展開していくのかが問われているのだと思います。奥さんの言葉をお借りすると、2Kでは広告が好展開しているが、4Kにはついてこない状況で、これをどういう形で市場と向き合って展開していくのかがポイントかと思います。

もちろん「プライムニュース」は、TVerでもYouTubeでも配信していて、アクセスは4K放送よりもそちらのほうが多いのではないかと思います。放送したものをどういう形で展開して、トータルとして収支がしっかり見えてくるように、コンテンツをどう企画していくのか、育てていくのかが問われているのではないかと思います。

【伊東主査】

今、4Kコンテンツの配信という話題が出てまいりました。今日の資料13-2の検討項目の3つ目の中にそれも含まれるかと思います。

事務局にお伺いしますが、4Kコンテンツの配信等についてのご意見を今後伺う、あるいはそれについて議論するという予定があるのか、コメントいただけるでしょうか。

【佐々木放送業務課企画官】

事務局でございます。今回の検討会では、衛星放送ワーキンググループではございますけれども、4Kコンテンツの配信ということも視野に入れて御議論いただければと考えてございます。その方面にご知見の深い方からのヒアリング等も検討してまいりたいと考えてございます。

【伊東主査】

どうもありがとうございます。議論のポイントになるところでの御質問を林先生から頂戴いたしました。今後、この件は議題に上がってくると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【大谷構成員】

大谷でございます。非常に分かりやすいプレゼンテーションをいただきまして、ありがとうございました。

奥先生、音先生、お二人ともBSプレミアムの停波により、民放含めた衛星波の視聴についてのシナジー効果が失われた現状を、データをもってお示しいただき、こうした数値に基づく分析の重要性を改めて実感した次第です。

音先生にご質問ですが、最後にまとめられていた衛星放送の高画質、多チャンネル、安定性といった特性を生かす再定義が必要だという御意見に大賛成なのですが、それを考える上で、音先生のプレゼンでいただいた2点についてどう考えていけばいいのか、さらに踏み込んで教えていただければというのが、まず質問でございます。

資料13—5の17ページにランダムに意見を載せていただいているところですが、ここで耳に留まったのが、チャンネルサプライヤーが疲弊しているのではないかというご意見と、プラットフォームとチャンネル事業者との関係性が硬直化しているというご意見です。こうした問題は、構造的な、全体のデザインに影響するところがあると思いますので、何らかの解決策を提示できないと、4Kコンテンツの普及にはつながらないのではないかと思います。ただ、そもそもB to Bの、民間事業者間でのビジネスモデルに関する課題であるので、なかなか制度上の役割、国、政府の役割がどのように期待できるのか、私自身は少しイメージが湧かず、その点について何か御示唆をいただければというのが、御質問の1点目です。

それからもう1点だけ、これは感想ですが、事務局からの御説明の中で、資料13—3の13ページで、4K番組にショッピングチャンネルが2番組ありますが、一定のニーズがあるということは認めるものの、電波の有効利用の観点や、4Kコンテンツを充実させていくという観点から、衛星放送自体の魅力向上につながるのかということについては、これからもこうしたチャンネルの在り方を考える上で、必ずしもポジティブに捉えられる項目ではないのではないかと思います。

視聴者により4Kの魅力を感じていただくためには、できるだけ幅広い支持を得られるコンテンツを運営していくことが望まれると思っており、あくまでも感想ですが、この点についても、前回、検討の機会をいただきましたが、引き続き検討させていただければと考えております。

【音主査代理】

ありがとうございます。民放BSもそうだと思いますが、市場が拡大していくときは勢いがあるといいと思いますが、市場が伸び悩んでいる、やや縮小傾向であるというときに、ある種のビジネスの閉塞感のようなものがいろいろな形でボディーブローのように効いてきているというのが、これらのコメントから伺えると思っています。

一つは、自由競争なのだから、そこは企業努力でという考えはもちろんあります。さはさりながら、放送事業ですので、現状における制度的な枠組みの中で、少し緩和することでより展開ができるのであればそれにこしたことはないだろうということや、プレーヤー間のある種の連携の

ようなものがより強くなれば、展開が進んでいくのではないかという考え方もあると思います。

アメリカなどとの比較で考えると、アメリカのメディア事業のほうが非常にくっついたり離れたりという動きが活発に起こっているのだと思います。日本はそういう意味では少しお行儀がいいところがあることも確かだろうと思います。

他方において、私の整理の中に少し書きましたが、新しいサービスというようなものをうまく作っていく、使っていくという可能性も十分検討する必要があると思います。

例えばユニキャストなども含め、何らかの制度的なハードルを下げることでサービスの多角化を図るということも十分考えられるだろうと思いますし、先ほどの4Kコンテンツの話でいうと、太い幹としての4Kコンテンツの出し口としてのBS4Kという視点もあるかと思いますが、その多面展開の可能性があれば、どれだけ市場を拡大できるのかということも併せて考える必要があるだろうと思います。

【内山構成員】

先ほどの伊東先生の御質問と少しかぶるのですが、今回3つ検討項目があり、1点目と2点目は衛星という伝送路の議論で、3点目はどちらかというとコンテンツの議論になっていて、違うレイヤーの議論になります。私の立場上、特に3つ目のコンテンツレイヤーという視点から議論していった方がいいのかという点を事務局に確認したいと思います。それから、どうしても4K・8Kというレゾリューションのワードが多いですが、例えばHDRに対応した高階調というような領域もある話なので、そういうことを含めて、いわゆる高画質という観点で議論してしまっても大丈夫かも、事務局に確認しておきたいと思います。

【佐々木放送業務課企画官】

事務局でございます。コンテンツレイヤーでの議論という点でございますけれども、4Kについて御議論いただく上では、4Kコンテンツの流通・利用をいかに拡大していくべきかという観点で、例えば制作に当たった課題であるとか配信に当たった技術的課題なども含め、御議論いただければありがたいと考えてございます。

そうした中で、恐らくHDRも含めて、高画質化の技術、そのほか配信や放送用の圧縮技術等も関係してくるものと思っておりますので、それらも含めて必要な場合には御議論いただければと思います。

【伊東主査】

ちょうど音先生の資料13-5の3ページに、いわゆる4K・8Kの技術的な特徴についての記載があると思います。画素数が増えただけではなくて、いろいろな点で品質が改良されていると。その辺りは当然、今後考えていく際のベースになると思っております。

【落合構成員】

落合です。御説明ありがとうございました。改めて今回の検討項目の4K・8Kをどうするかというところについて、親会の方でも議論してきましたが、やはり、経営の選択肢をどのように確保していくのかも考えながら議論していくことが重要だろうと思っております。

一方で、衛星であるからこそできることにはどういったことがあるのかも認識しておくことも重要と思いました。その観点から奥先生、音先生に御質問できればと思います。一点目が、4K・8Kであるから、衛星放送であるからリーチできる層、リーチできるようなコンテンツにはどういったものがあるかと見られているかを伺います。

二点目は、特に音先生のご発表のほうで、配信事業者がある種のインフラコストを負担していないことによって、コンテンツに投資できるような環境もあるということでした。これまでも衛星放送ワーキングの中で、どういう形で関係者の費用を合理化できるかという話をしてきました。その一方で、衛星という仕組みを使った4K・8Kというものを議論していこうとしたときに、大きくコストを圧縮できる方法はあるか、可能な範囲でお伺いできればと思います。

【奥構成員】

大変難しい質問かと思えます。4K・8Kならではのコンテンツということかと思うのですが、確かに、完パケ系のものよりは、イベントと同時に会場から中継するライブ系のコンテンツの方が、リアリティーがあったり、いわゆるVFXなどの新しい技術を使ったりして、臨場感あふれるもの、没入感のあるものをつくることは比較的着手しやすいのではないかと思います。例えば大リーグもそうですし、その他のプロのリーグ戦などの様々な試合があろうかと思います。加えて、報道など代表されるスタジオで収録しているものであればやりやすいと思います。

配信に向くのはどちらかというとパッケージ系、アーカイブ系のものだと思いますが、そこは少し難しいのではないかと思います。

それから、やはり地上波と異なるのは、地上波のブロードバンド代替といった話もありますが、衛星放送の場合、停電によって各家庭に電源が仮に来ていなくても、放送局に伝送路が確立していれば、3万6,000キロメートルの上空から全圏に1波で出せるということです。これをうまく使うということは、今のBSやCSにとって、多チャンネルあるいは受信料や広告などとは違う視点で、この仕組みを使う何か新しいサービスモデルがあればいいというのが私の希望ではあります。

2点目については、まだアイデアがないので、各所での議論を待ちたいと思います。

【音主査代理】

今、奥先生がおっしゃったことと随分重なるかと思いますが、高精細度なので得意なジャンルといえるでしょうか、スポーツや中継物などを、今以上に積極的に提示することはできるだろうと思いますし、それを展開していくこともできるだろうと思います。

8Kに関しては、8Kが出てきたときに、ただ単なる放送サービスだけではなくて、もっといろいろな形でこのテクノロジーは使えるのではないかという議論は当初からされていて、それは

一定程度、認識されているのではないかなと思います。

言うなれば、高精細度の映像でできるものをどのように広げていくのかということも、4Kの放送サービスの展開とともに、検討する必要があるのだろうと思います。

それから、後半の部分の御質問は難しいところがあるかとは思いますが、2つの御質問合わせてですが、世界的に見てみると、4Kスタンダードがどんどん進んでいる状況もありますので、それらを横目に見ながら、プレーヤーの展開ということを考える必要があるかと思っています。

他方、私が図で書きましたとおり、一定程度の社会的責任や公共観といったものを担っている事業者がサービスを提供するということの持っている社会的価値の共有というものも、この話とは連動するのかなと思います。

【飯塚構成員】

御説明ありがとうございました。配信に関連してコメントさせていただきます。

海外の大手ストリーミングサービスでは、主力番組が4Kで配信されています。その一方、例えばイギリスBBCのケースでは、BBC iPlayerで配信されている4K番組は限定的なものの、徐々に増えてきていると承知しております。他方で、BBCは既に多くのドラマを4Kで撮影していると言われておりまして、iPlayer以外のストリーミングプラットフォームでは、BBCの4Kコンテンツが視聴できるケースがあるようです。つまり、同じ番組であっても、BBC独自のiPlayerのアプリではHDでしか見えないところ、他のストリーミングプラットフォームでは4Kで視聴できるというケースがあるようです。また、BBCによりますと、4Kコンテンツを最大限に活用するには高速インターネット接続が必要であるということで、ダウンロード速度は最低40Mbpsを推奨しているということです。このように多くのコンテンツが、4Kを中心として制作されていると見られますが、実際に4Kで配信するか否かは、配信先に応じて、ビジネス上の観点から決定されていると見られます。

また、4Kコンテンツを視聴者が楽しむには、ブロードバンド接続環境が整っていることが求められます。現状、4Kコンテンツの配信は、事業者の戦略やブロードバンドの普及を見ながら市場に委ねられている状況であり、日本でも、現状では事業者の経営判断に委ねるのが適切ではないかと思われるところです。

他方で、世界的に見ますと、4Kコンテンツは増えており、また、AIの活用やバーチャルプロダクションの利用なども踏まえると、4Kを含めた最新技術によるコンテンツ制作の支援策については、産業振興の観点から検討する余地があるかもしれません。英国政府は先月、テレビ・映画・ゲームなどを含むクリエイティブ産業振興のための支援策として、イノベーション、資金調達、研究開発、人材育成及び地域経済成長を支援するため、約4億ポンドの資金提供を発表しており、日本においても、クリエイティブ産業全体を包含するような支援策を検討していくことも必要かもしれません。

【伊東主査】

どうもありがとうございます。4 K放送、それから4 Kコンテンツの配信に関する海外、特に英国の話を頂戴しました。

いずれ海外の状況につきましてもどこかでお話をいただければと思いますが、事務局、そういうこともお考えでしょうか。

【佐々木放送業務課企画官】

事務局です。おっしゃるとおり、海外の動向というのは我々としても注視していきたいと思いますが、今回の議題については非常に重要な点と思っておりますので、どこかでお伺いできる回を設けたいと考えております。

【伊東主査】

それでは、ぜひよろしくお願いします。

どうもありがとうございます。意見交換はここまでとさせていただきます。

(5) 閉会

事務局から、第14回会合は8月21日(木)13時からの開催を予定している旨連絡があった。